

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 909 号	氏名	渡邊 慎一
学位審査委員	主 査	中尾 一彦	
	副 査	永安 武	
	副 査	西野 友哉	
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、透析腎癌と非透析腎癌におけるトリプターゼ陽性肥満細胞 (MC-t) 密度、並びに stem cell factor (SCF)、protease activity receptor-2 (PAR-2) 発現の臨床病理学的意義を検討しており、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 透析腎癌 35 例と非透析腎癌 39 例を対象とし、免疫組織学的手法を用いて MC-t 密度、SCF、PAR-2 の発現量を比較検討し、臨床病理学的所見との関連、並びに癌組織内の proliferation index (PI)、TUNEL 陽性細胞数との関連を検討しており、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 透析腎癌では非透析腎癌に比し、MC-t が癌組織内及び周辺組織に有意に多く分布していることが明らかとなった。同様に SCF、PAR-2 も透析腎癌において発現量が有意に増加していた。透析腎癌において MC-t 密度、SCF、PAR-2 発現量と癌の Stage、Grade との関連は認めなかったが、癌組織内 MC-t 密度は癌細胞の PI 及び TUNEL 陽性細胞数と、PAR-2 発現量は PI と有意な関連を認めた。透析腎癌と MC-t、SCF、PAR-2 の関連性を明らかにした本研究の意義は極めて高いと考える。</p> <p>以上のように本論文は透析腎癌の病態解明に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士 (医学) の学位に値するものと判断した。</p>			